

福岡県勤労者山岳連盟第 46 期活動方針(案)

今日、日本の情勢は混迷を極めています。バブルがはじけて以来、庶民は暮らしにくく、失業者は増え続け、ハローワークはいつも満員、学生新卒者の就職は困難を極め自殺者も増え続けています。知人の男子学生は、80 社も受けてやっと 1 社内定したといっていました。自信喪失につながるとも嘆いていました。

非正規採用が常態化し、当然労働条件が悪化し、登山の時間も制限され、将来を見通せない状況におかれている。リタイア組は別にしても、働く者にとって長い暗いトンネルを歩いているようです。

アメリカの顔色を伺いながらの政治なんて悲しすぎます。大きく世界を見ても、中東の戦争は絶えず、エジプト、リビアなど独裁政権は次々崩壊、天変地異に翻弄され、この生きた地球に今私達は生存する。一面の顔を登山者として。

この一年 1000 名を超える会員の要求に沿い県連盟の役割はいつそう大きなものとなります。常任理事を先頭に各専門部と一つ一つ課題をこなしていくものとします。

組織的体制

会員数が 1000 名を超えたこと、この土台を定着させ飛躍させるためにも、インターネットなどを活用し、広く登山愛好者に勤労者山岳連盟の魅力を伝えていきます。

これには今以上に各会との連携が必要になってまいります。内の事務処理は 2 年をかけ改善されてきました。県連盟が何をしているかを理解していただき、情報の提供、行事協力でこの船を前へ前へ進めていきたい。

各会、いろいろな特色がありますそれをより発揮させてもらうためにも、県連盟を活用して下さい。全会にホームページを立ち上げてもらうための教室を開きます。

各専門部の活動が役員リーダーの不足などで停滞することのないよう、同じような内容の行事には小異にこだわらず、合同作業を行い大きな成果を作り上げる。そのための専門職の登録を目指す。

創立 45 周年登山祭典行事を成功させる。機関紙発行に大きな力を注ぐ。事務局員体制を強化する。

山岳事故をなくすために

リーダー養成のために県連登山学校を強化し、教遭部をはじめ、救助隊訓練、技術のアップに力を注ぐ。

会員の危機管理意識を高めるために合同の登山教室を開く。

自然保護運動

年2回の清掃ハイクは今後も続けて行う。「山のトイレ協議会」の活動に参加し、他団体との協力を惜しむことなく、原生林を守る会や九ブロとの交流を積極的に行い自然との付き合い方の輪を広げる。

対外活動

登山情報センター（山の図書館）の活動支援協力を行う。

幅広いスポーツ愛好者団体との交流や、環境問題、安全登山の普及のために積極的活動を行う。

個人会員制導入については、全国連盟制度として作られ管理運営されるものとして県連盟で対応出来るものは対応していく。個人会員にはない各会の魅力ある会づくりを支援していきたい。

常任理事会は、次期総会までにこれらを踏まえ、前向きな方針を提案するものとする。